



PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

LETTER

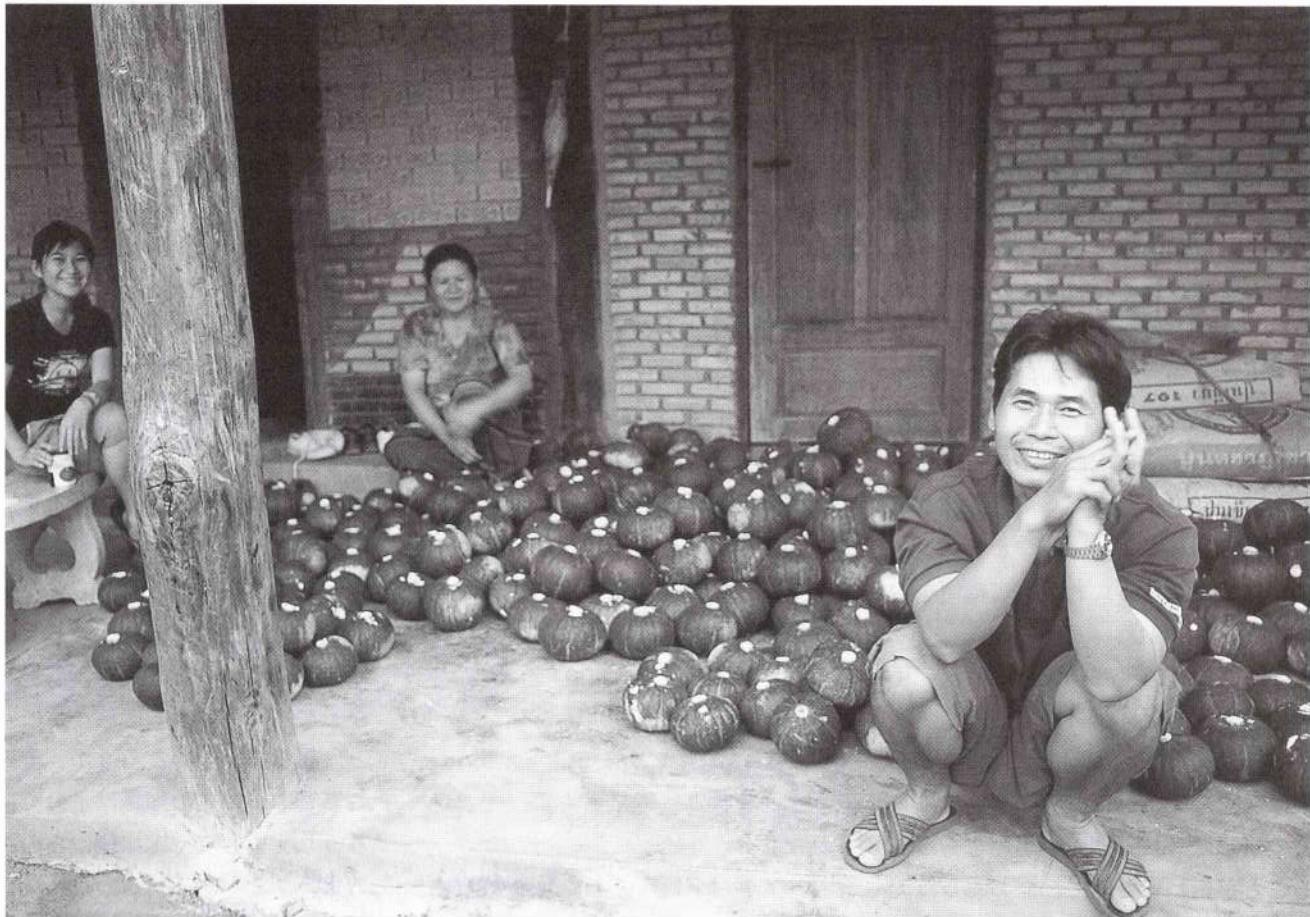
105

2007.12

- 夏のスタディツアーレポート インドネシア・ビルマ
- 研修生レポート&国内研修生座談会
- 同じ買うなら、使うなら「オーガニックコットン 長袖Tシャツ」

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和（Peace）と健康（Health）を担う人づくり（Human Development）をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじめました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人：藤野 達也
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E-mail : phd@mb1.kisweb.ne.jp
URL : http://www.kisweb.ne.jp/phd
定価：100円
郵便振替口座：財団法人ビー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688



タイ チェンマイ県ムシキー 撮影:FUJINO T.

おいしいかぼちゃがいっぱい穫れたのはうれしいんだけど
売る先に困っています。

町までは車で半日かかるし、ガソリン代は高いし、どうしよう。
高い日本の種を買って、作ったんだから、
できたかぼちゃも日本に送れたらいいのに。

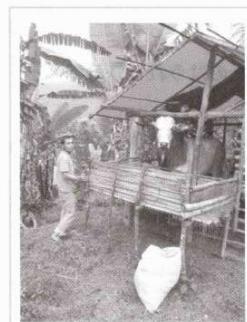
**東西南北
問題解決
取組日記**

**スマトラの人選は
2度目の希望者**

今年の夏に訪ねた地域に、帰国後事件が相次いだ。8月下旬に訪ねたインドネシア、西スマトラには9月12日にまた地震が起こった。地震の翌日、研修生の村に連絡をとると、何軒かの家は壊れたが、ケガ人はでなかつたとのことで、安心した。

一方9月初めに訪ねたビルマではご存知のように反軍政のデモが起きた。研修生の村には直接の影響はなかったが、憂うべき事態となってしまった。今回はひとまず終息したかにみえるが、市民の不満のもとが解消されて、おさまったわけではない。今後も流血沙汰なく多くのビルマの人々にとっていい方向にいくことを願うばかりだ。私たちはここ数年、研修生をビルマから招き続けている。研修生を迎え、出会い、支えてくださる皆さんが研修生を通じてビルマのことをずっと気にかけてくださることが、また何かの力になることと思う。

スマトラでは08年度の研修生に、今年に統いてシランジャイ村から、ペリスマンさんを選んだ。昨年の面接にも参加し、結果は次点だったが、今回の面接では日本での研修に対しより強い思いをもっていることが伝わってきて、立ちあつた元研修生のみんなの賛成もあり、決定した。



**ビルマは新しい村からの
選考に**

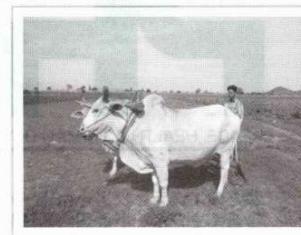
例年7月に訪問していたビルマに、今年は9月初めにでかけた。過去、パスポートを手に入れるのに時間がかかり、そのため早めの研修生決定が必要であった。しかし最近は以前の半分くらいの期間で入手できるようになっていたため、ツアーハーの参加者が増えることも期待して9月の訪問としてみた。

ビルマではこれまでにマンダレー郊外の農村タダインシェとそこから南へ数キロ離れたイエボから研修生を招いてきた。現在、村の外にいる人も一部いるが、それぞれ4、5人の数となつたため、昨年の選考時に、次は第3の地域への拡大と相談していた。それに応え、今回はムームーさん（93年度研修生）の夫が小学校の校長先生を務める地域で準備がすすめられていた。中心の村はミンガンといい、タダインシェ村から車で北に1時間程行った農村である。7月中旬にトゥンティンさん（93年）が、まず下見を行った。8月中旬に再度訪問し、ミンガン村に住む隣村シンブジーの校長先生とその妻で診療所の看護師のお二人に相談をし、周辺の村の青年に声をかけてもらった。その上で8月下旬にテーさん（05年）、スヌーさん（06年）、スウェイインさん（02年）と出かけ、説明会を実施し、候補者を募っておいてくれた。

初めての村ということで選考は2日にわたった。集まつたのは5つの村からの8人、男性7、女性1。診療所の部屋を借り、初日は全体説明と個別の面接を行つた。終了後、元研修生もまじえ、協議し、3人に絞りこんだ。翌日はその3人の村と家庭を訪問。ミンガン村までは車で行けるが、周辺の村へは道が悪いため、バイクに分乗してでかける。村を歩き、家族と話をした。星をはさんで再度協議の結果、シンブジー村のボーボーハンさんを選んだ。覚えやすい名前だが、有名な歌手の名前と同じだそうだ。選考にあたつては候補者の熱心さも印象的だったが、元研修生人が同席して、いい人を選ぼうとしてくれたことがうれしかった。



これがうれしかった。



産業発展に伴うもの

今回のビルマへの旅には03年の国内研修生で、今は水俣病患者を支援する団体の職員さんが参加した。昨年度の研修生スヌーさんが水俣を訪ねた際に、村の川の汚染について相談していた。そこで今回現地にでかけ、調べてもらうことになった。はじめに予定していた川は上流にある化粧品工場が稼働していなかつたため、さほど問題はなかった。しかしもうひとつ行ったところは、酒の工場の污水がそのまま流れでて、強烈な悪臭を放っていた。たぶん何の処理もされないまま農業用水路に流されているのだろう。現地でいくつかの試薬を使い検査もしたが、汚すぎるのか、測りきれない。詳しくはもちかえったデータから分析してもらうことになった。地域の人も悪臭から、いいものとは思っていないだろうが、そのもたらす影響についての知識は十分ではないだろうし、ましてや工場側からの説明もあるまい。



改善のためには、まずは地域の人々に問題として意識してもらうことが必要だろう。そこに水俣はじめとする研修生の日本での社会学習の経験が生きればうれしい。

総主事代行 藤野達也

**夏のスタディツアー報告
インドネシア編**

8月22日～31日

この夏11名でインドネシアに行った。目的は次年度の研修生の選考、戻った研修生のフォローアップ。現地で会えた研修生の数は12人。情報収集だけでもかなりの時間が要つた。まずはソロ郡の山の村。4日間滞在し、海の村。バシルバルーには2日間滞在した。山の村では、昨年の研修生ブットラさんが、日本で勉強した本を片手に試行錯誤しながら学んだことを実践し、アルウーさん（01年）とマスラルさん（05年）が村の人たちと灌漑整備に取り組んでいるなど、日本での研修が少しづつではあっても確実に根を張っていることが実感できた。また同じ女性として、女性の帰国後の活動に非常に興味がありました。ヤニさんは現在日本語を2つの高校で教えている。しかし日本語教師を目指す学生がぞくぞくと大学を卒業しているため、この先自分が継続して教えていくことはできないかもしれないということだった。また、野菜の植段が非常に不安定で、例えば人参の植段が昨年2500ルピア（約32円）/kg程度だったもの



参加者の声

建設中のアフリタさんが教える幼稚園の前で

にはゴミを始め多くの問題が存在するが、私たちには見習う点が多い。日本は食の点で他国に依存しないと生きていけない国になったと思う。タベ村（ソロ郡）で食べることは自給自足なので、フードマイレージ（生産地から食卓までの距離が短い食料を食べた方が輸送に伴う環境への負荷が少ないという考え方）は小さいだろうし、必要最低限のものだけを買って、無駄なものがない。日々の生活の中で、「これは買う必要があるのか？これはどこの国からきたものなのか？」と日々自分に問い合わせていこうと思う。

（西宮市 大学生 石井加奈）

一人の生活は、今の日本ほど、物（実際は国外を含めた他人の力）に囲まれなくたって生きていける。だが、多くの人は物に恵まれていて今の生活に飽き足らず、もっともっとと要求する。そういうことが、地球そのものに大きな負担をかけていることは、自然現象の荒れを見れば気つく。しかし、日本人のそうした要求感は、いろいろなものを作り出す。生活中で進むか、退くかは、地球の負担がより少ない方法を心がけたいと思う。

（吹田市 的野慶子）

が、今年は倍以上の6000ルピア、セロリは3倍の9000ルピア。日本で栄養の勉強をしたもの、野菜を買わなければいけない漁村では、野菜の植段に振り回されてバランスの取れた食生活を実践するのは難しいとのことだった。

研修生たちから聞いた帰国後のこと、私たちが今後どう支えていくべきか、難しいことだと思うが、考えていきたい。

三輪望



ボシアンドゥに集まつたお母さんと子ども



インドネシア

アルウーさん（01年度）

昨年虫で唐辛子がやられたため、今年、村のみんなは栽培をやめた。そこに堆肥をたくさん入れた畑であえて栽培。農薬少々で大成功。



左からアルウーさん、ダスヴィルさん、マスラルさん、ブットラさん、アフダールさん

アフリタさん（04年度）

カユジャングイ村で幼稚園を始めて4ヶ月目。新しい建物を建設中で役場に助成金を申請する予定。

ブットラさん（06年度）

牛を1頭購入。肥料は草やバナナの茎から作っている。唐辛子は病気のため今年は不作。



アフリタさんとエリさん

アリ・ムルティムさん（87年度）

漁業協同組合の経理監査や共済、製氷工場での仕事は順調。11月、村に市場を作る予定。



アリ・ムルティムさん サムスアリスさん

サムスアリスさん（90年度）

11月に2人の子どもが結婚。結婚費用が要るので大変。同居の実子5人と親せきの子どもを預り育てている。

25期生研修生レポート

ティダさん
女性・35歳・ビルマ（ミャンマー）

8月20日～28日

ささやま保育園

（兵庫県篠山市／保育）

滞在：岩下富子さん・八司さん・恵子さん宅
約2週間ぶりに戻った保育園、2度目ということで既に職員の皆さんとは顔見知り。園内の勝手も分かってます。前回の研修で分からなかったことや、もう少し詳しく聞いたかったことを先生に説明してもらい、乳幼児の保育に関してより理解を深めることができました。

9月3日～13日

大森昌也さん

（朝来市／パン作り、野菜、米）

春に大森さん宅を訪れた時に一目惚れした手作りのかまと！？パン焼きを教わることをメインに自給自足の生活をしながらの研修は、日本の農村問題についても考える機会に繋がりました。滞在中には海外からの他の研修生を含め多くの方との交流を通じ、見聞を広めることができました。



9月18日～26日

あすなろ保育園

（岡山県赤磐市／保育）

滞在：高木唱洋さん宅
保育園での研修も3か所目。日本の保育園の様子も随分と分かり、今後の研修の課題も見えました。今回初めてPHD研修生を受け入れてくれた保育園でしたが、ティダさんの研修ぶりには好感をもってもらいました。

洋裁も少ししてみたいと言っていたティダさん。週末はホームステイ先で試しに鞄作り。これは少し易すぎたようです。

10月1日～5日

小規模作業所 ステップハウス

（兵庫県高砂市／身障者のケア）

滞在：沖田和明さん・勝子さん宅
今までの研修先とは様子も勝手も違う研修現場。初日は少し戸惑った様子でしたが、

すぐにそんな不安を吹き飛ばし、自ら進んで介護補助を行いました。最終日にはスタッフの皆さんから好評を得、貴重な体験をすることができました。一番苦労したのは最終に入ったTV取材のインタビュー？

10月9日～16日

PHD飛騨友の会

（岐阜県高山市／農業・洋裁 等）

滞在：石原辰雄さん宅

農業や洋裁で手ほどきを受けました。秋の深まつた高山で、日本の冬を身近に感じながら合掌造りの民家も見学させてもらい、神戸では味わえない日本の文化や歴史にも触れることができた1週間でした。

ヘルマイエニさん
女性・22歳・インドネシア

8月13日～18日

水田裕之さん・さかえさん
（京都府綾部市／加工）

村でもできるお菓子作りのヒントを得るための研修です。自家栽培した野菜や身近に手に入る野菜を使って、主にパン系のものを教わりました。週末は京都市内の市で販売も手伝いました。

8月23日～9月2日

シオン保育園（島根県西ノ島町／保育）
小規模通所授産所ございな（島根県西ノ島町／身障者のケア）等

滞在：佐倉真喜子さん宅
保育園での研修を含め、10日間に色々なことが予定されていた研修でしたが、嵐のために作業所での研修が1日キャンセルに。成人の健康維持など、保健衛生面の研修も少しずつ開始です。神戸では機会を逃した花火大会も、地元のお祭りで楽しめました。

滞在：金本勉さん宅、米田祝子さん宅
宍道健康センターで学んだことをもう一度おさらい。乳幼児やお年寄りの健康診断では村のボシアンドゥ（保健医療活動）と比較しながら、疑問に思つたことは持ち前の明るさと積極性を生かし直接担当の医師に質問。保健師さんもこの前向きな姿勢には驚いた様子です。

10月1日～2日

田坂友江さん（兵庫県三木市／洋裁）

滞在：福永隆昭さん・就子さん宅
しばらく間が開いた洋裁研修。今まで学んだことを思い出しながらスカートを作成。もちろんデザインは自分で！短時間の研修でしたが先生からもお褒めのお言葉をいただき、上達度が伺え、一步前進です。

10月4日～5日

竹野一実さん（三木市／洋裁）

滞在：光田弘さん・和子さん宅
ラマダン（イスラム教の断食月）で集中力を切らしミスを続発する場面も。少しずつ上達してきた技術もこれでは台無しに。細かい作業が多い洋裁では、心にも余裕が必要です。でも、初めて作った本格的なズボンは、上手に仕上がりました。

10月9日～13日

尾崎食品株式会社（神戸市西区／大豆加工）

市販のスナック菓子の消費が徐々に増える村での生活。子供たちに健康な食べ物を作つてあげるヒントを得るために、豆腐作りを教わるかたわら、おからを利用したクッキーや豆乳を使ったケーキ作りも練習しました。調理中は音楽を聴きながらリズム良く！？お菓子作りが好きなのはインドネシアの女の子も同じようです。



チャユーさん
男性・37歳・タイ

8月9日～17日

伊藤博文さん・雅秋さん
（和歌山県広川町／果樹、加工）

東出雲町保健相談センター

（島根県東出雲町／保健衛生）

昼は蜜柑畑で摘果作業、夜は家で蜜柑や梅の加工について勉強。接木技術の説明も受け、果樹栽培についてタイと日本の比較が少しききました。お盆休みでゆっくりとした研修でしたが、伊藤さん宅で滞在中のインドネシアからの研修生とも切磋琢磨！？

8月24日～9月1日

西川則孝さん

（愛媛県西条市／野菜、養鶏）

初めての兵庫県外での研修。NHKのラジオ番組の取材や西川さん宅での研修の時は恒例の地元FM局への出演と、研修以外でも忙しい1週間でした。研修の様子はNHK第一「ラジオ深夜便」の11月号に掲載予定。

9月1日～13日

泉精一さん

（愛媛県松山市中島町／土着蔵、野菜、養鶏）

希望の一つに挙げていた自然農法（BIO）について勉強。大きな期待を抱いての研修だったこともあり、その作り方から活用法まで、収穫は沢山あったようですが、今年度はじっくり学べるようにいつもより長めに時間を取つたこともあり、基礎知識は一通り学べました。後は村で実践あるのみ！

9月20日～26日

橋本慎司さん

（兵庫県丹波市／野菜、米、養鶏）

常に自分が勉強したいことを明確にイメージしているチャューさん。生産者と消費者の関係について勉強を希望していましたので、生産者と消費者を直接結ぶ「産消提携」について話を聞ける時間を作りました。その他、土壤の養分のことなどについても話を聞き、畑での作業が終わった後も勉強に余念があ

りません。研修後、土壤の養分についての書籍も購入しました。

10月4日～13日

牛尾式博さん

（兵庫県市川町／野菜、米、養鶏）

彼岸花が綺麗な畑で去り行く夏を感じながらの農作業。鋭い観察力で今まで見てきた畑や養鶏場と比較します。期間中には地元の神社の秋祭りでお神輿も担ぎ、「農作業よりも疲れた。」と感想。秋満喫の研修でした。



第12期国内研修生

さかいひとみ
酒井仁美さん

（長野県岡谷市生まれ、今は大阪市在住）



10月から第12期国内研修生として
酒井仁美さんが研修をしています。
職員佐々木とボランティア松本直樹さんとの
座談会をとおしてご紹介します。

佐 研修が始まり、まだ1週間ですがいかがで
しょうか？

酒 事務所の皆さんがとても気さくな方たちで、
ボランティアの方ともお会いできるのでと
ても楽しいです。

松 若い頃から海外へ行かれていますが、何ヶ
国位行かれましたか？

酒 大学時代はアジアを中心に行きました。福
祉を学びたかったので、その後は北欧に
行き、アメリカなどにも行きました。

佐 社会福祉をライフワークとして捉えられて
ると思いますが、きっかけは何でしょうか？

酒 私は、祖父母とずっと一緒に暮らしていて、

とても尊敬していました。今でこそ高齢者福祉と言う言葉を使いますが、それ以上に「祖父母のような素敵な人達と付き合えるような仕事があったらいいな」というのが一番大きいです。

佐 海外との関係と社会福祉との関係性をどの
ようになりますか？

酒 自分の身近な生活の中で困っている人、
助けが必要な人がいるならば互いに協力
していくというのが、福祉の考え方だと思
うので、それは世界各地共通の想いだな
と感じています。日本も海外も一緒だと実感
しています。

佐 例えば福祉を考える時、一つの数字として
平均寿命がありますね。日本の平均寿命
80歳。海外に目を向けると発展途上国平
均寿命50歳前後の現実を見てどのように
思いますか？

酒 長寿イコール幸せということではなく、長く
生きればそれだけ幸せも苦勞もあり、それを
どうの様にとらえていくのか、数字には出
てこない一人一人の人生の中身がすごく
大切な比重を占めていると感じます。ただ、
発展途上国の方々は医療があり、支
援があれば生きることができる命が失われ
ていく状況に対しては、改善していく必要
があると思います。

松 今のような視点はアジアなどに行かれて感
じられるものですね。日本において数字だけ
見ていたのでは、長生きの方が良いと思いま
す。

松 お考えを聞かせてもらって、仲間としてちゃ
んと私たちと一緒に頑張らなくてはいけな
い気持ちになりますね。

ますが、自分が別の場所に行ってみて日本と比較してみて出てきた結論かもしれませんね。

佐 今の世の中は数値で比較しがちですが目に見えない価値というか、そのようなものを大切にしていく、必要性、感性の部分をどのように思いますか？

酒 すごく難しいことだと思うんですが、目に見えないものが多いうな気がするんです。また、自分でも人生を良くしたいと思っていても、そなならない部分が多くて、それを負とみてしまうのかもしれません、何年後か先にはそれがあったから良かったと思うこともあります。目に見えるもの、数字だけでは、一概には判断できないと思うんです。

佐 国内研修生として、何を考え、何を期待して、ここで研修をしたいと思われたのか、お聞かせたいと思います

酒 こういう機会を与えてくれる場所があるとい
うことは自分にとって本当に恵まれたことだ
と思っています。普通の生活の中では出会
えない研修生の方々や、日本に住んでいてもなかなか行ったことがなかったり、目を向
けた事がない所へ行かせてもらったりする
中で、自分の生活の中でしか見えていな
いものから、また違った視点で見えるもの
が一つでも多くなれば良いと感じています。

松 お考えを聞かせてもらって、仲間としてちゃんと私たちと一緒に頑張らなくてはいけない気持ちになりますね。

夏のスタディツアーレポート

ビルマ編

9月4日～11日

今夏のビルマスタディツアーレポートは、日程を少しづらして9月上旬に行なった。夏休み中だったことから久しぶりに学生の申し込みもあり、参加者5名、職員2名の計7名でビルマに向かう。

9月のビルマは雨季にあたり、例年の訪問時期の7月に比べ少し暑さも和らぎ、涼しいときは30℃くらい。マンゴーの収穫も終った後、今年はタダインシェ村1日、イエボ村1日、そして来年度から新しく研修生を招くことになったシンブー村周辺に2日という日程で村での行動日程を組み、帰国研修生のフォローアップと次年度研修生の選考を中心に行ってきました。

タダインシェ村では、まずは来日中のティダさんの実家に招かれ、ビルマ特有のおもてなしを受けた。イエボ村からも研修生が早速駆けつけてくれ、ボリュー

タダインシェ村

トゥンティンさん（93年度）

日本で学んだ米の稟植や有機農法について村人の間には随分理解も広まり、現在はヤンゴンまで技術指導に出かけることも。今は村の小学校建替に伴い仲間と共に奔走中。

タウンティンさん（05年度）

めでたく2月に結婚した奥さんと、今は村のワインさん（92年）の家を借りて住んでおり、奥さんのお腹には既に赤ちゃんも。農業のほうも日本で学んだことを少しづつ実践し、今は主に自然農業（EM菌）について取り組んでいる。

スステインさん（06年度）

帰国後は来日前にボランティアをしていた小学校に復帰し、今は3年生の先生。先生が以前に比べ増えたため、今後は別の学校に移ることも考えている。私塾でも2名の子供を教えている。

イエボ村

ケンターウェさん（03年度）

学校の先生になるのは思った以上に難しいのか、現在は村から車で10分ほどのところにある薬科大学で3ヶ月ほど前から事務職の仕事に。

ゾーウィンさん（04年度）

5月に結婚し、幸せいっぱいのゾーウィンさん。他の研修生同様、今はEM菌に取り組み、結果も少しづつ表れてきた。家の裏の広い畑は今年はバナナを栽培中。

ムたっぷりのデザートをいただき一息ついたところでティダさんの日本での研修の様子を報告した。

タダインシェ村、イエボ村での2日間は村を散策しながら帰国した研修生の近況を伺い、ここ1年間の活動のフォローアップを行なった。活動の成果として目に見える形で現れていたのは、やはり農業だった。日本の研修で学んだことをできる限り実践し、少しづつ成果をあげている。トゥンティンさん（93年）曰く、「今まで長年続けてきたスタイルを変えるのは難しいこと。でも、正しいと信じたことは実践しないと結果も出ない。」トゥンティンさんを中心とした農業面での取り組みが今後も楽しみだ。

農業以外の面でも、村の生活を改善していくために研修生たちは頑張っていた。新しい学校建設のための募金集め、幼稚園の運営資金を得るための手編みのマフラーの販売。公にグループ活動が出来ない環境下で、自分たちが出来る範囲で努力

している様子が伺え、他の国で頑張っている研修生たちにも励ましとなる報告ができそうだ。

今回のツアーは、参加者の中に栄養の先生がおられたので、栄養面からも村の生活状況を観察しアドバイスをいただくこともでき、日本での研修を考えるうえで有益な情報を得ることもできた。今年は研修生から農業に関する日本での調査を2点リクエストされたので、今後調べたことを報告していきたい。

高垣隆博



村の学校を案内してくれるトゥンティンさん



ビルマ



左からトゥンティンさん、ゾーウィンさん、トゥンティンさん、タウンティンさん、スステインさん、ケンターウェさん



No.9 PHDのオーガニックコットン長袖Tシャツ

オーガニック（有機）は、食べ物だけじゃありません。着るものも選ぶ時、買う時、その素材がどこから来て、どんな過程でできているか考えたことはありますか？コットン（綿）は天然素材として、環境にやさしいイメージがありますが、一般的な栽培、製品化には、農薬、化学薬品が使われ、煙で働く人や周辺の環境にも被害が出ている事実があります。そこで、オーガニックコットンを扱う東京のお店「green tee」を通じ、インドの地で、自然の力だけで栽培した素材で作った長袖Tシャツを130枚限定で仕入れました。お肌の弱い方にも安心して着て頂けます。作る人にやさしい、着る人にやさしい、土、水、空気にやさしい「オーガニック長袖Tシャツ」。着ているものからも世界を考えることができます。この1枚のTシャツからその一步を！

色は紺の一色。後ろの襟元にPHDのロゴが小さく入っています。XS, S, M, Lの4サイズで2,800円。



8月9、10日 JICA兵庫 多文化共生のための開発教育・国際理解教育セミナー

8月18日 岡山県国際交流協会

「国際貢献ボランティア養成講座」

8月22日～31日 インドネシア・スタディツアーリ

8月25日 篠山愛の縁日 バザー

8月26日 農業体験 加古川で芋掘り

9月4日～11日 ビルマ・スタディツアーリ

9月13、14、18、19日 関西国際大学講義

9月20日 帝塚山学院大学講義

9月22日 共栄学園高校文化祭講演

9月29日 啓光学園中学校高等学校交流会

10月6日、13日 つかしん「タイランドフェア」

10月9日 飛騨友の会交流会

10月10日 ソロブチミスト高山交流会

10月13日 神戸シルバーカレッジ学園祭 バザー

10月17日 コーヒーうら桃山台レインボースクール

10月19日 加古川老人大学OB講演会

啓光学園交流会



3回目を迎えた今回は生徒と研修生が一番近くなった啓光学園中学校高等学校（大阪・枚方市）での交流会でした。

1限目は270人が前に3人の研修生がスライドで村の様子を説明。3つに分かれての2限目は、質疑応答のあと文化、生活を紹介しました。ティダさんは生徒に木の皮を使ったビルマのお化粧「タナカ」を塗り、ヘルマさんは西スマトラの伝統舞踊を、チャユーさんはギター弾き語りを披露。3人のパフォーマンスが輝く1日でした。

篠山愛の縁日

兵庫県篠山市で毎夏行われる行事に、PHDの協力団体「篠山ナマステ会」の皆さんからバザーのお誘いを受け、一画に出展しました。ささやま保育園で研修中のティダさんとインターナンスの吉元さんも参加。ティダさんは、日本の夏のお祭りを楽しみ、ご満悦。美味しいものもお腹いっぱい食べた夏の夜でした。

農業体験 芋掘り

まだ陽射しが真夏だった8月26日の日曜日、加古川の丸山悦司さん・陽子さんの畑で催された農業体験に家族で参加しました。初対面の私をはじめ、参加者全員を底抜けの包容力で受け入れてくださった丸山さんご夫婦からホンモノの芋掘りを教えていただきました。さつま芋は有機栽培された鳴門きんとき。

掘ったそのお芋の味は「もう私お芋だけあればいい♪」レベルの横綱級。当日は最高潮に暑く、滝汗を流しながら掘っていたら陽子さんが最高潮に冷えたスイカを出してくれた。このスイカも有機栽培。やはり最高潮においしいんだろう？有機栽培だと体中でおいしいと感じるこの感じ。有機栽培とは、化学肥料や化学農薬を使わず有機物のみを用い、かつ栽培から消費までが食物連鎖的に繋り返し循環されている栽培手法のこと。つまりそこに小さな生態系が成立してるので、一過性ではなく永く農業を続けるにはこれでなければならぬわけですね。畑を単に場所としか考えず畑自体を健康に保たないと栽培は破綻してしまいます。有機栽培って人が健康な地球と共に生きていく為に昔の人々がずっと守ってきた方法なんですね。自國でこの方法を広めてくれる研修生を誇りに思った農業体験でした。

野崎敏宏（会社員・神戸市）

社会勉強だけではなく、ボランティアやアジアと日本の関わりについて考える事ができ本当にいい経験になった。

（吉元あゆみ）

インターを通して

今年も8月、9月にそれぞれ2週間、インター生を受入れました。神戸学院大学3回生の松井さんと佛教大学3回生の吉元さんです。お二人の感想を紹介します。



タイのカレンの女性たちの活動を紹介する準備をする松井さん（左）

このインターで沢山のことを学んだ。PHD協会は主に国際協力をしているのかと思っていたがとても幅広い活動をしている。海外からの研修生は教える事ばかりではなく自分達が教わる事もたくさんあるらしい。私も実際に少しの時間だが研修生と話してみて日本人がいかに贅沢な生活をしているのかがわかった。アジア諸国で最もエネルギーを消費し、資源の無駄使いをしているのは日本だ。それを理解し、何とかしなくてはと私たちちは思わないではならない。今までは何も考えずに生活していて、そんな話を聞いても自分には関係ないと思っていたが、ここ2週間お世話になり、研修生と話し、自分ができることは何かと考えるようになった。

援助や支援と言われると、先進国が途上国に行うこと、というイメージが僕の中では強かった。しかし、貧困を生み出しているのは、先進国であり、私たちである。日本という経済大国に埋もれ育った私たちは、日本の豊かな生活が当たり前で、「普通だ」と感じてしまう。しかし、自らの生活を見てみると、無駄にする事や必要以上のぜいたくをしている。物を大切にしたり、エネルギーを少しでも減らすぐらいのことは、身近でできる事だと思う。日本で行える国際協力はたくさんあるんだと気づいた。（松井吉雄）

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2007年 8月 99件 ¥ 928,180
 9月 62件 ¥1,886,404
 161件 ¥2,814,584

上記の通り、多くの皆様よりご净財を賜りました。心より御礼申し上げます。今年も年末募金の時期を迎えます。PHD活動の更なる推進のために、引き続きのあたたかいご支援をお願いいたします。

◆一緒に会報を作つてみませんか?

会報の企画や編集をして下さるボランティアを募集しています。研修先やイベントに取材に行き、記事を書きます。是非PHDを皆さんのお目を通して紹介してください。担当三輪までご一報を。

◆タイの子どもたちの絵をご活用ください



10月初旬に尼崎市にあるショッピングモール「つかしん」で行われた「タイランド・フェア」に参加しました。日本にいながらタイを満喫できる催しで、カレンの草木染布を販売しました。また88年のタイの研修生ワラヤさんが教える小学校の子どもたちの描いた絵を展示しました。絵はそれぞれタイの日常生活が鮮やかに描かれています。フェア終了後はこの絵を貸し出ししています。A3サイズで30枚あります。お問い合わせ

編・集・後・記

猪突猛進の年もあつという間に11月を迎ってしまった。いつもこの時期になると、この1年、充実した時間をもてたかを自問する。そしていつも流されてしまった自分にあきれる。でも今年は違う。PHD協会に入りを許されて10ヶ月。いろんな刺激があった。若い人たちがイキイキと楽しく、ごく日常のこととしてボランティアをしている。異国地から3名の留学生がこの難しい日本語をいとも簡単にクリアし、飢えた大地に水がしみ込むように

第26期生 ホストファミリーを募集します。



ボーボーハンさん
ビルマ・23才・男性



ペリスマンさん
インドネシア・26才・男性



スラデさん
タイ・45才・男性

期間 2008年4月から1年間。来日後最初の6週間は毎日、以降、月平均7日程度。

希望滞在場所 神戸三宮まで1時間程度で通える範囲。
お礼 当会規定による食費、滞在費をお支払いします。

せください。

◆ロータスクーポンが図書カードへ

今までに皆さまからいただいたロータスクーポンが図書カード56,500円分に交換できました。研修を補う本や日本語のテキスト購入など、有効に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

◆年賀状書きの季節です

年末年始のごあいさつにはPHDのハガキをご利用ください。アジア・南太平洋の子どもたちの写真 8枚一組500円で販売中です。ご注文は電話、ファックス、Emailで受け付けています。またもし書き損じた官製の年賀状がでてしまったときはPHDにお送りください。新しい切手と交換し、日々の郵送代として活用させていただきます。

◆すみません、訂正です

PHD LETTER103号の表紙写真の撮影地表記はヤンゴンではなくマンダレーでした。お詫びし、訂正します。

すべてを吸収している。嫌なこと、絶望的なことがありの世の中にあって、この世界は別天地か。"幸福とは共に生きる社会"とナチスから命からがら米国に渡った作家が言ったという。名実とも共に生きる社会の一員になりたいと切に思う。来年はどんな年になるのだろうか。いいも悪いも本人次第。厳しく自分をみつめたい。
(3月よりボランティアをしている初老人のつぶやき)

制作協力：増本一朗 松本"顧問"直樹 坂井時和

○月×日のPHD協会

国内研修生 酒井 バザーの売子に初出動。ネパールの研修生のセーター大人気にてんてこ舞い。南極ツアーパートナーに参加するお客様のご購入にびっくり。

職員 三輪 某日某所でのフェアに出展。秋の日の夕方は風も吹いて、けつこう寒い。お客様が来ないから、さらに寒い。風邪ひかないように帰ろう。

職員 川原 関西NGO大学に参加。貿易ゲームの最中に資源として配られた紙が他班による盗難にあい、ゲームとはいえ、これはひどいと大憤慨。

職員 高垣 島根に出かけるチャユースさんと神戸駅で待ち合せ。うまく会えず予定のバスに間に合わないことに。慣れてきた頃、たまにこんなことが。

職員 藤野 久々のテレビ取材。ロケ先での収録映像を見ながら司会者とお話し。ゲストの大桃美代子さんの隣にすわって、ちょっとどきどき。

職員 佐々木 チャユースさんとロータリークラブの卓話に。プロジェクトで村の様子を紹介予定が機械不調で映らず。秋なのに、いつもの百倍の発汗。

(物事に動じない順)

-再生紙を使用しています。